

学校運営協議会だより

令 5.5.26

第1回学校運営協議会が開催されました。(5月18日)

令和4年度から準備を進め、今年度より「学校運営協議会」が設置され、コミュニティースクールを導入いたしました。

「学校運営協議会だより」では、話し合われた内容を掲載し、保護者や地域の皆様と情報を共有し、「それぞれの立場で何ができるか」を一緒に考え、実践していければと思っております。

① 学校運営方針について

校長より、学校教育（共育）目標「笑顔いっぱい 学校大好き 櫛引大好き 西小の子ども」について説明があり、委員の皆様より承認されました。

また、目標達成のために、学校では、「あいさつ運動」を本気でがんばっていること、この運営協議会を発信元とし、「あいさつの響き合う西小学校」になるよう協力いただきたい旨をお伝えしました。

② 意見交換（熟議）

「地域の中の多くの目で、地域の子どもを育てよう～あいさつの声が響き合う西小学区～」をテーマに様々な立場から、活発な意見交換が行われました。委員の皆様からは、あいさつのことだけでなく、あいさつ以外でも良い意見が出されました。以下、委員の皆様の見解です。

- 昔は、〇〇教育というものはない。しかし、子どもは育ってきた。つまり「人を育てる」ということにつくる。地域もがんばらなければならない。
- 下校後、外で子どもたちを見かけることが少ない（元気よく外で遊んでほしい）。登校時、先に子どもたちからあいさつをしてくれる子が増えた。かわったなあと感じている。周りの大人たちも先に自分たちからという取り組みをしたこともあり、その効果もあったか。
- 毎朝の挨拶、元気に言ってくれる子が多くがんばっている。東北地区の子どもたち、長い距離を頑張って歩いている。
- 学校でいろいろ教えていたわけではなく何となくだったが、今では、学校でのいろいろな取り組みが生きていると感じている。学校だけでなく、地域の大人も発信していくことが大切。
- 先輩の姿を伝えていくということがいい学びになるので、あいさつをがんばっていくという考えはとてもよいと感じている。登下校時の時間が合う時は、顔を出してあいさつすることはできる。地域の中で育てようという意識を大人も持つことが大切。
- 指導してもらった大人に対して「はい」と言えない（言わない）子に違和感を感じ、我が子も含め、他の子にも返事をしようと声掛けしている。まず大人から声をかけ、手本となれるようにしたい。
- 上学年の子どもたちが遠くから大きな声で言っていて良いと感じる。大人に向けてのあいさつは上手だが、子ども同士のあいさつが聞かれないのが残念。
- 本人がしているつもりでも、相手に届いていないあいさつが多いように感じる。スポ少での返事やありがたうの言葉を発することが大切だと教えていきたい。自分よりも地域のことを子どもたちの方がよく知っている。そのことから自分ももっと地域に入らなくてはと感じている。

学校運営協議会委員（13名）

会 長	安野 浩之さん	(学校評議員)
副会長	齋藤 公平さん	(学校評議員)
委 員	安野 一郎さん	(学校評議員)
	松浦 昇さん	(学校評議員)
	上野 由香さん	(学校評議員)
	渋谷 せつさん	(学校評議員)
	平藤 嘉賢さん	(PTA会長)
	齋藤 祐介さん	(PTA副会長)
	渋谷 景子さん	(PTA副会長)
	井上 実さん	(主任児童委員)
	小野寺雄司さん	(中田地区区長)
	富樫 正克さん	(桂荒俣地区区長)
	伊藤 りり子さん	(くしびき西部保育園園長)
事務局	校 長	佐藤奈保子
	教 頭	上野 昭彦
	教務主任	齋藤 幸枝

- 下校時に外に立つことが多い。こちらから声かけすると必ず応えてくれる。「あいさつしない大人はあやしい」と教えたい。
- 昔は、他の家でも悪いことをしたら、注意等したりして地域で育てていこうというものがあった。今はあまりないが、注意よりもほめることも意識して地域でも声かけをしていきたい。
- 保育園児同士は、お互いにあいさつをしている。だんだん大きくなると恥ずかしいからしなくなるのだろうか？学校で取り組んでいることを、保育園でもうまく橋渡しをしていかなければと感じる。
- 小学生のあいさつがんばっていると感じる。中学生も個々にはしてくれるが、集団になるとあまりしていない。子どもにあいさつとは言うものの、大人同士であいさつをきちんとしているかということ、そうでもないかもしれない。これが、子ども同士がしなないこととも関係していると感じる。自分の子だけでなく、ダメなものはダメと言えない世の中もどうかならないかと感じることがある。
- 見守り隊のメンバーが現在11名。なかなか手がいらない。地区のみなさんから見守ってほしいというような願いを地域にしている。こちらからのあいさつに答えてくれるが、自発的に…というものは小さい子ほど難しいと感じている。
- 地域の方からの「あいさつがよくなっている」という声が聞かれたことはとてもうれしいです。学校では、まずは「おはようございます。さようなら」から始めよう。「相手に届くあいさつを」「遠くの人にも」という目標を少しずつ提示しながら取り組んでいます。少しずつでも細く長く続けられる取り組みしていきたいと考えています。

この意見交換から、西小の子どもたちは、地域の皆様から見守っていただき、安心・安全な毎日を過ごしていることを強く感じました。本当に感謝申し上げます。また、さらに子どもたちの成長や地域の活性化を本気で願っている熱意も感じ、そのために我々大人ができることは何なのかというヒントも得られました。

- ①あいさつは、どの年代でも大切なコミュニケーションの第一歩。大人から、とにかく諦めず声をかけたりあいさつしたりしていくことで、子どもたちの手本になっていく。
- ②子ども同士があいさつをかわすためには、まず家庭で大人同士がしっかりとあいさつをし合う。
- ③地域の皆様からも登下校時に合わせ、子どもたちに声をかける。(自分の時間を見つけて、子どもたちの様子を見守っていく。)
- ④地域でも子どもの成長について話題にし、地域の中で育てようとする意識を持ち、広めていくよう発信していく。
- ⑤地域の大人が、他人の子どもでも、良いところはうんとほめ、ダメなところはダメと教えていくことも大切。

この運営協議会は、こうした地域の皆様の声を基に、地域の皆様のお力を借り、子どもたちの成長を支える活動を持続していくことで、西小学区も盛り上げていこうとするものです。そのために、「大人が変われば子どもも変わる」という意識を持って、家庭でも地域でもできることから始めてまいりましょう。

また、運営協議会発足1年目の今年度は、あいさつ自慢の西小学区(地域)を目指し、地域・家庭・学校が一丸となって、「あいさつ運動」を進めてまいりましょう。皆様の協力をお願いいたします。

※学校運営協議会での話し合った内容を、今後も、このおたよりを通して全戸に発信していきます。本校ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。保護者や地域の皆様のご意見が子どもたちの成長や地域の活性化につながります。お気づきの点がありましたら、遠慮なく、学校運営協議会委員や学校(57-2106)にお知らせください。

今回は、令和6年2月20日(火)開催予定です。